

原子力発電所における事業者の自主点検作業 記録に係る不正等に関する調査について

平成14年9月12日
経 済 産 業 省

1. 事案の概要

- 東京電力㈱の福島第一、福島第二、柏崎刈羽の各原子力発電所のうち13基の原子炉に係る自主点検記録について、不実記載等の29件の不正の疑いがあることが原子力安全・保安院の調査により判明。
- これらは国が直接立ち会って検査する対象ではなく、原子炉の安全性に重大な影響を及ぼすものではない。ただし、機器のひび割れ等が現在も残っている可能性のある11件については、念のため当省が安全評価し、直ちに安全性に重大な影響を与える可能性はないと判断し、8月29日、結果を公表。

2. 経緯

- 平成12年7月に通商産業省（当時）は、米国GE子会社の元社員から点検記録の書き換えなどの不正が行われた旨の申告（情報提供）1件を受けた。当省は、直ちに東京電力に連絡するとともに、申告者からも新たな申告案件1件と当初の申告案件に関する追加情報を得て、数次にわたり事実関係の確認を求めてきた。しかしながら、東京電力は調査に非協力的であり、調査は難航。
- このため、当省は平成13年11月頃、作業を行ったGE子会社に対しても調査への協力を要請。平成14年1月から申告者の情報の裏付け情報を徐々に入手。より確実な裏付けを得たことから、改めて東京電力に対して追及を行ってきたところ、東京電力は、8月に入り申告案件2件を含め不正の疑いがある案件が29件あることを認め、関係する原子炉の名称等を当省に開示。

3. これまでとった措置

（1）政府の措置

① 立ち入り検査の実施

東京電力の福島第一、福島第二、柏崎刈羽の各原子力発電所に対して、9月2日から9月4日まで、当省職員による立入検査を実施。9月6日には、東京電力本社に対する立入検査を実施。

② 関係自治体への説明

原子力安全・保安院長、審議官等が、8月30日以降、青森県、新潟県、福島県及び関係市町村を往訪し、事案の内容、経緯及び安全性評価

について説明。

③ 総点検の指示

8月30日、その他の電力会社含め原子力事業者16社に対して、同様の問題が発生していないか総点検を行うよう指示。9月6日から、各原子力事業者から自主点検作業を請け負っている関連事業者に対しても、総点検への協力を要請。

(2) 東京電力の対応

① 関係する原子炉の停止

新潟県知事等からの要請等をふまえ、東京電力は9月2日、柏崎刈羽1号機については原子炉を停止して定期検査を前倒して実施するとともに、福島第一4号機、福島第二2～4号機については原子炉を停止して自主点検を実施することを決定。これは安全上の問題ではなく、地元住民の安心のため実施された措置。

② 社内調査の徹底

社内に原子力事業部門から独立した調査チームを設け、徹底した事実関係の解明を行っているところ。9月中旬を目途に全容を解明し発表予定。

4. 今後の対応

(1) 事実関係の解明

不正の疑いに関する事実関係については、9月中を目途に中間報告を作成・公表する。

(2) 再発防止策の構築

申告への迅速な対応、検査の実効性向上、法令違反行為への抑止力強化などを念頭に、総合資源エネルギー調査会原子力安全・保安部会の下に「原子力安全規制法制検討小委員会」を設け、法制面も含めた再発防止策を検討する。9月13日第1回会合開催、9月末頃を目途に中間報告案取りまとめ。

また、設備を新設する際の基準だけでなく、運転中の設備の維持に関する基準の整備についても検討する。

(3) 調査過程の評価

外部の専門家等による評価委員会を設け、原子力安全・保安院の調査の結果、調査のプロセス等について中立的な立場からの評価を受け、今後の改善につなげる。9月13日第1回会合開催、9月中を目途に中間報告案取りまとめ。

(4) 地元への説明

今後も地元自治体等への説明について積極的に対応し、信頼の回復に努める。

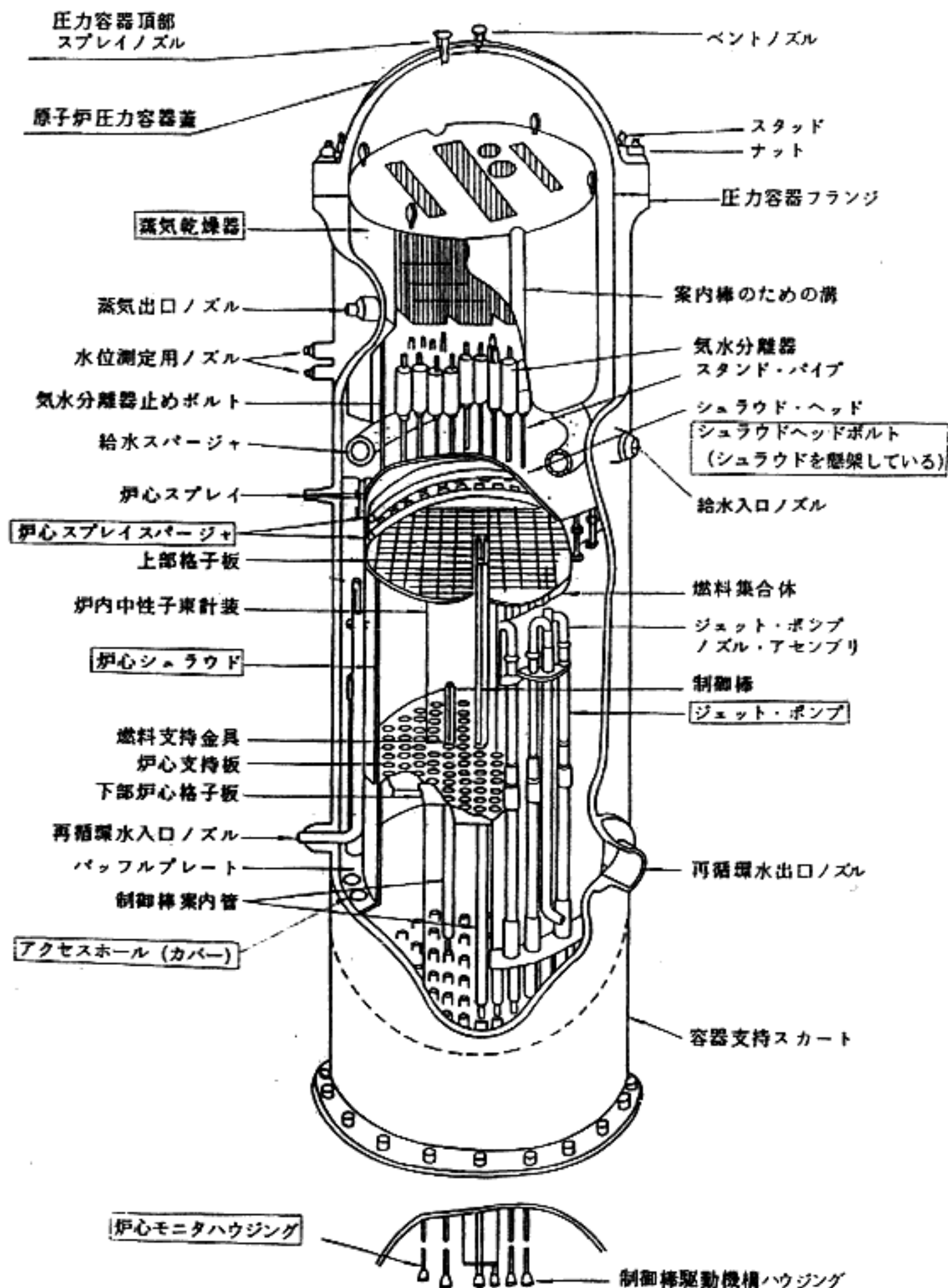


図1 圧力容器俯瞰図

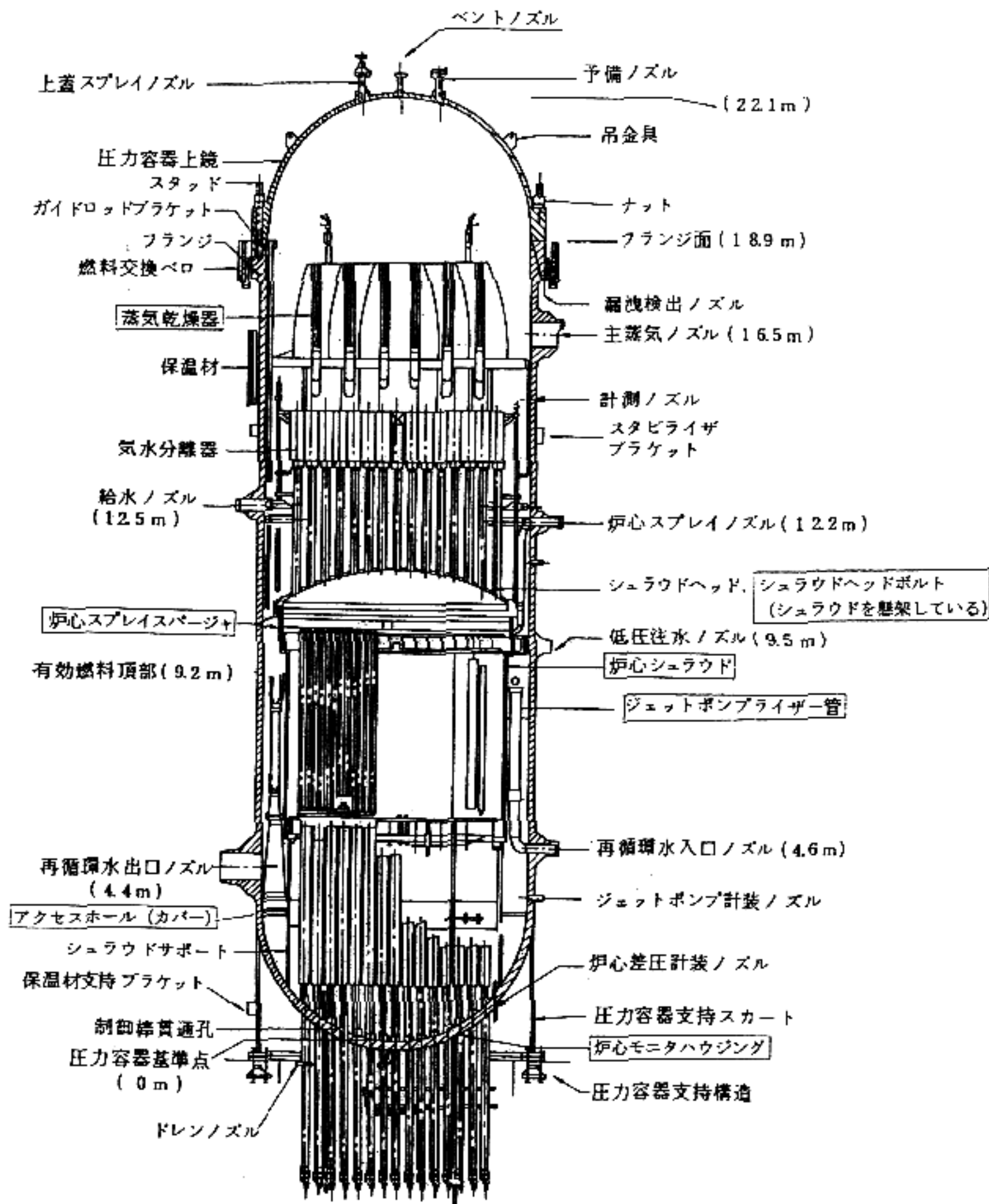


図2 圧力容器断面図

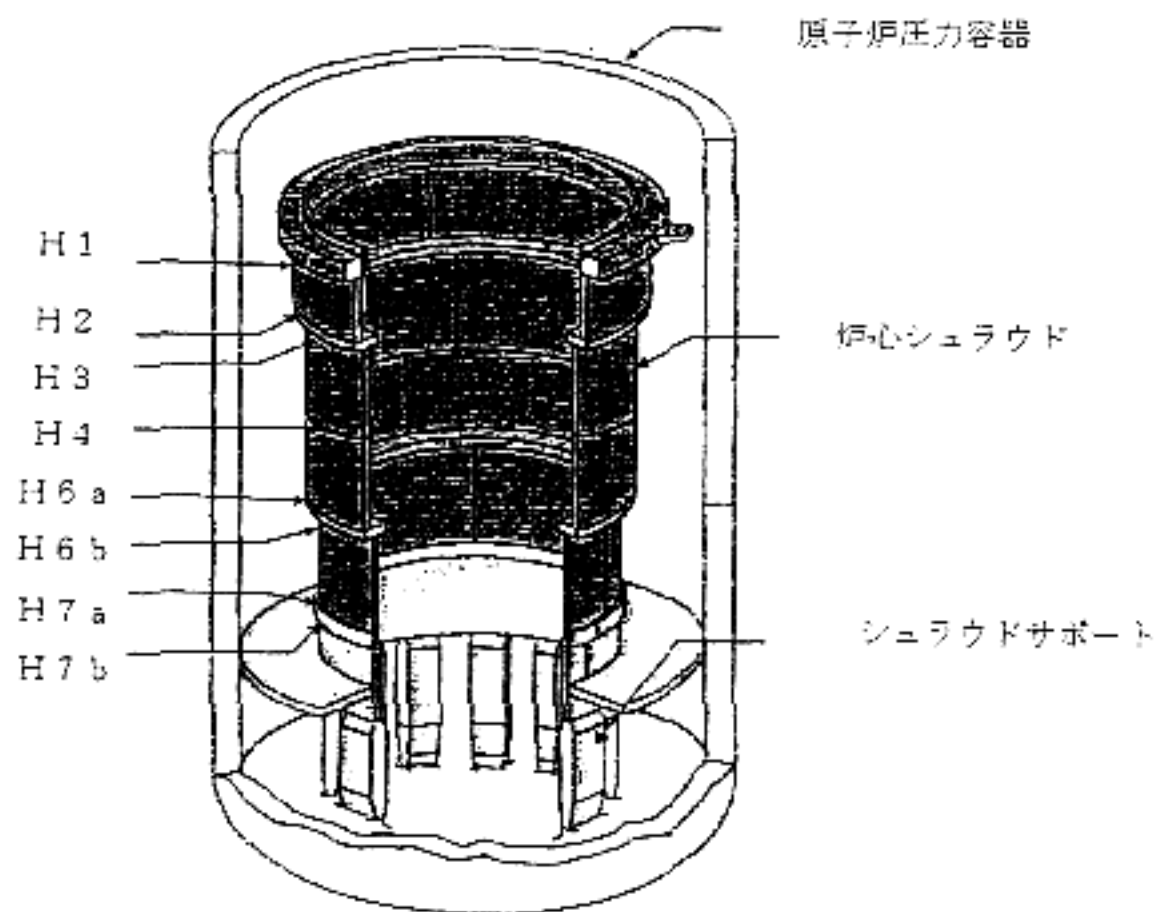


図3 炉心シュラウド概要図

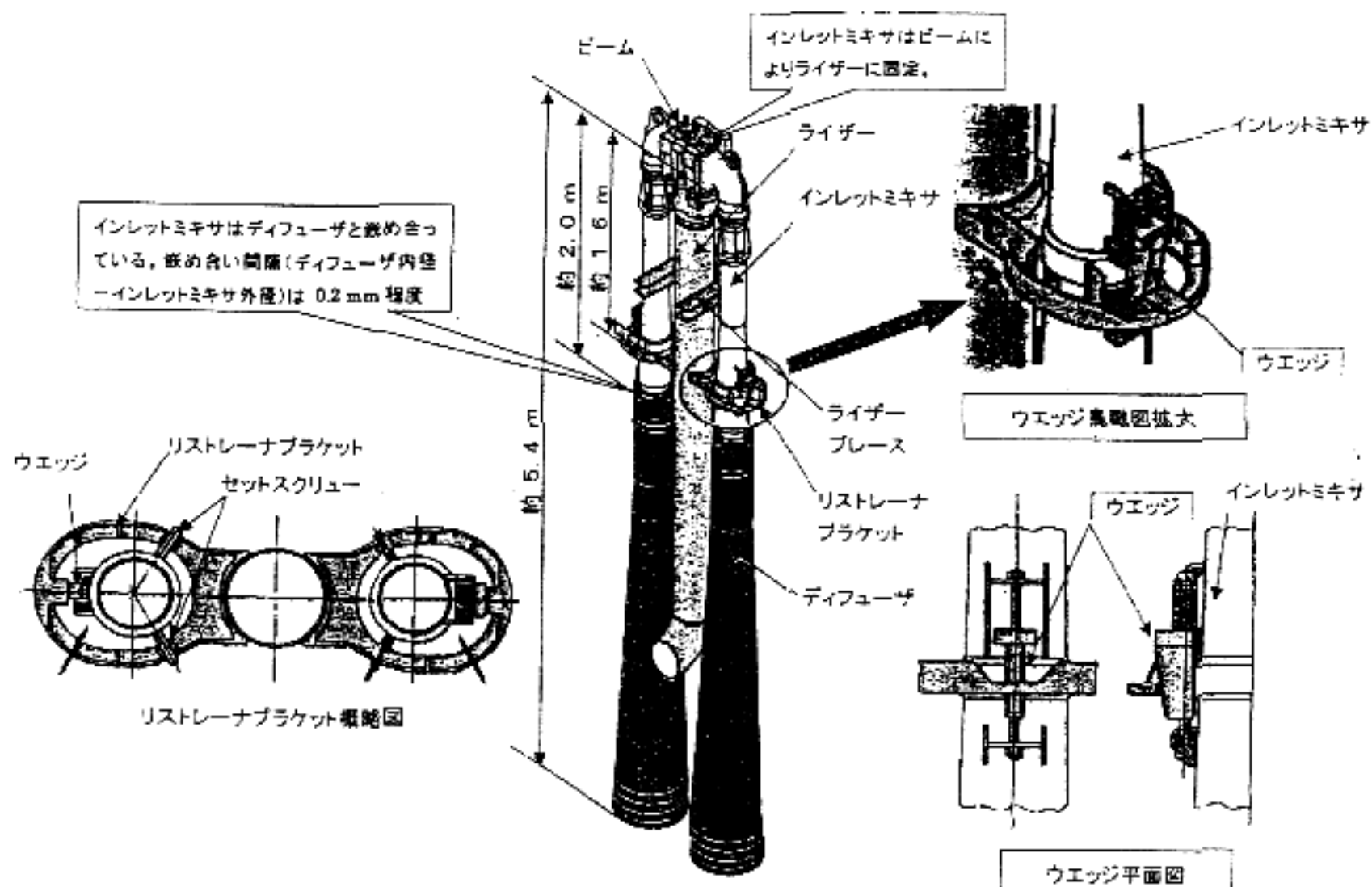


図4 ジェットポンプ概要図

対象機器	号機	疑いのある事実	原子炉内に現存するか	現存しない根拠	原子炉内に未修理で現存するか	修理の有無	安全評価	安全性への影響
シュラウド	1F1	未報告、未修理のひび、またはその兆候の疑いあり	×	シュラウド取替済み	—		—	なし
	1F2	未報告、未修理のひび、またはその兆候の疑いあり	×	シュラウド取替済み	—		—	なし
	1F3	未報告、未修理のひび、またはその兆候の疑いあり	×	シュラウド取替済み	—		—	なし
	1F4	未報告、未修理のひび、またはその兆候の疑いあり	○		○		実施	なし
	1F5	未報告、未修理のひび、またはその兆候の疑いあり	×	シュラウド取替済み	—		—	なし
	2F2	未報告、未修理のひび、またはその兆候の疑いあり	○		○		実施	なし
	2F3	未報告、未修理のひび、またはその兆候の疑いあり	○		○	一部修理	実施	なし
	2F4	未報告、未修理のひび、またはその兆候の疑いあり	○		○		実施	なし
	K1	未報告、未修理のひび、またはその兆候の疑いあり	○		○		実施	なし
シュラウド・ヘッドボルト	1F1	未報告のひび、またはその兆候のあるボルトを取り替えの疑いあり	×	取替済み	—		—	なし
	1F2	未報告のひび、またはその兆候のあるボルトを取り替えの疑いあり	×	取替済み	—		—	なし
	1F6	未報告のひび、またはその兆候のあるボルトを取り替えの疑いあり	×	取替済み	—		—	なし
ドライヤ	1F1	未報告のひび、またはその兆候を修理の疑いあり	×	取替済み	—		—	なし
	2F1	未報告のひび、またはその兆候を修理の疑いあり	○		×	修理済み	—	なし
	K1	検査中に損傷したガイドロッドを未報告のまま修理の疑いあり	○		×	修理済み	—	なし
アクセスホールカバー	1F2	取替実施中に発見したひび、またはその兆候を未報告の疑いあり	×	取替済み	—		—	なし
	1F5	検査後に締め付け不足のボルトを未報告で修理の疑いあり	×	取替済み	—		—	なし
	1F6	ひび、またはその兆候を未報告のまま修理の疑いあり	×	取替済み	—		—	なし

対象機器	号機	疑いのある事実	原子炉内に現存するか	現存しない根拠	原子炉内に未修理で現存するか	修理の有無	安全評価	安全性への影響
炉心スプレイスパーチャ	1F1	未報告のひび、またはその兆候を修理の疑いあり	×	シュラウドと一緒に取替済み	—		—	なし
ジェットポンプ (ライザー配管)	1F1	公表・修理したひび、またはその兆候の発見日が不正確の疑いあり	×	シュラウドと一緒に取替済み	—		—	なし
ジェットポンプ (ウエッジ等)	1F6	未修理の摩耗・すき間の存在の疑いあり	×	取替済み	—		—	なし
	2F2	未修理の摩耗・すき間の存在の疑いあり	○		○		実施	なし
	2F3	未修理の摩耗・すき間の存在の疑いあり	○		○		実施	なし
	2F4	未修理のすき間の存在の疑いあり	○		○		実施	なし
	K2	未修理の摩耗・すき間の存在の疑いあり	○		○		実施	なし
	K5	未報告の摩耗・すき間を修理した疑いあり	○		○	一部修理	実施	なし
ジェットポンプ (センシングライン)	1F6	未報告のひび、またはその兆候の疑いあり	○		○		実施	なし
ICMハウジング	1F4	未報告のひび、またはその兆候の疑いあり	×	取替済み	—		—	なし
その他	1F3	レンチの紛失・回収の疑いあり	×	シュラウド取替時、異物のないことを確認済み	—		—	なし